

# や っぱりええなあ。総社のまち



たぬきいわやまつみいしづか  
**狸岩山積石塚  
古墳 (宿地区)**

倉敷市との市境、水別峠の300m程東側を南北に走る稜線があります。そのひときわ高くなった狸岩山の山頂部(192m)に2基、そこから南西に約200mの位置に1基(倉敷分)積石塚古墳が築かれています。高松市の石清尾山や長野県の善光寺平には、群をなした積石塚が見られますが、県内で積石塚と呼べるのは、この狸岩山の積石塚古墳だけです。

えた倉敷市立菅生小学校の裏山の遺跡からは、初期の須恵器や朝鮮半島系軟質土器など、五世紀前半の渡来人の居住地を推定させる遺物も多く出土していることから、この一帯の古墳の中にも、大陸文化の影響を強く受けたものがあったのも不思議ではありません。

式石塚が想定される位置には、その石塚の下半分しか存在せず、古くから乱掘溝があり、戦国時代の防備施設や経塚に転用されたのではないかと伝えられています。まちづくり支援室まちづくり支援係 ☎8242

# も もっちもおすすめ新国体情報



ありがとう、さようなら

～最終話～

やっと最終回を迎えました。国体と全国障害者スポーツ大会は昨秋に終わりましたが、私にとっては今月の記事が閉会式です。正直なところ、ホッとしています。実は、この2年間の連載には、こんな裏話があったのです。

でもらえる連載にするために「3つのルール」を設定することでした。①テーマは、国体に関する素朴な視点とすること。②語り口調で、親しみある文章にすること。③筆者は、実在するけれど架空の人物とすること。これらを約束事に連載はスタートしました。

ながら、国体を楽しむこともできました。そして、設定した「Q」という架空の人物は、いつしか私自身となりました。連載上で予告して、Qマーク入りの服で国体会場に行ったことも、今では良い思い出です。

# 健 康アドバイス (吉備医師会から)



寺島 直之 医師

## 耳の病気

治りにくい中耳炎は繰り返し返す風邪が原因 保育園や幼稚園での風邪のピンポン感染で、中耳炎を頻回に繰り返すうちに、次第に薬が効かなくなり、治りにくい症例が増えていきます。熱が下がっても耳だれや鼻汁が多く咳込みが続いている時は登園は避けましょう。

で、めまいを伴う症例もあります。2週間過ぎると聴力改善が望めなくなり。①耳が原因のめまい ①メニエル氏病 ②良性発作性頭位めまい ③一定の向きに頭の位置を変えることで起こる一過性の回転性のめまいで、同じ向きに頭の位置を変えることを繰り返している

にめまい、難聴を生ずるもので、素もぐり、くしゃみ、飛行機の離着陸、強い鼻かみなどが誘因となります。耳かきのやり過ぎは外耳炎のもと耳掃除もやり過ぎると、かえって湿疹様変化をきたし、化膿したり、カビが寄生し、慢性化します。

# 市 長室から

## カボス ～新規作物第2弾～

立春が過ぎ、早春の候となった。この頃になると吉丸一昌作詞、中田章作曲の『早春賦』に想いがいく。♪春は名のみの風の寒さや…で始まる名曲だが、吉丸一昌が作曲したのは、大正2年11月2日だそう。晩秋にあつて、早春の情景を見事なまでに詩にしている。

熊沢蕃山は「怒りと欲を捨ててこそ、常に心は楽しめ」と言われている。心を自由に開放するには、身体の健康も大切である。人間の体は食べ物によって作られているが、その大部分は農産物である。

の「カボス」を導入予定だ。カボスは、レモンに次いでビタミンCが豊富に含まれており、焼き魚にかけても、焼酎に入れてもとても美味しくていただける。当初、国産レモンが栽培できたらと思いついてみたが、冬の温度が低すぎてダメとのこと。そこでカボスで試してみたいと思